

一般財団法人住環境財団 御中

一般社団法人大樹自然機構
代表理事 阪井清正

助成金報告書

— 「バドックパラダイス」に関する助成事業について—

1、申請者

〒089-2113

北海道広尾郡字大樹町 656-3

一般社団法人大樹自然機構 代表理事阪井清正

2、テーマの名称

芽武におけるパドックパラダイスの実現可能性の追求

3、開催期間

R3.5.15～R3.10.31

4、開催場所

北海道広尾郡大樹町字芽武 158-1

メムアースホテル敷地内

5、開催目的・意義

本プロジェクトでの目的は、メムアースホテルの敷地内で、「パドック・パラダイス」としての理念に基づき、馬の育て方や環境を整備することで、人と馬、両者にとっての理想的な暮らしを具現化することである。

パドック・パラダイスでは、馬の自然放牧モデルを主とし、野生馬に近い環境や生活スタイルにすることで、人間に飼われた馬よりもけがや病気が少なく健康かつ丈夫に生きることができることを証明している。

メムアースホテルの施設は、元々「タイキトレーニングセンター」という競走馬の育成牧場である。小規模に仕切られた牧柵の中で管理するシステムは、馬へのストレスに加え、人的な部分でも管理コストがかかってしまう。そこで本プロジェクトでは、パドック・パラダイスの理念に基づき、馬が自然に放牧できる環境を再整備するとともに、そこに集う人間にとっても楽しく安全に馬との時間を過ごすことができるような環境づくりを目指す。

最終的には、メムアースホテルが描くパドック・パラダイスを創り上げることで、馬の健康状態を向上させるとともに人的コストを削減させることに加えて、施設内で人馬共生の理想的な形を社会に向けて発信できるようにしたいと考えている。

6、結果報告

本プロジェクトでは、5万6,000坪という広大な敷地面積ということから、実施するエリアを絞って実施した。北海道・帯広で造園業を行う「かわい造園」社に協力の依頼し、改修エリアを選定、1,000㎡の新たな走路製作ならびに牧柵修繕、草地整備を行っ

た。改修は2021年夏季より開始され同年10月に完成した。結果として以下の3つの成果と1つの課題を得られることができた。

成果①：年間通じて馬の体調安定化

全4頭のうち元々高齢馬で持病を持つ1頭が夏季より発作により体調を崩したことで一時的な医療費が増幅した。しかし他3頭の体調は年間通じて安定して過ごすことができ、結果として前年度の医療費(646,107円)に比べて10%近く医療コストを削減することができた。高齢馬の管理は医療費の増大と比例傾向にあるが、本プロジェクトを通じて馬が自由に放牧地を散歩することで、能動的に程度の運動を促すことで心肺機能の維持さらには向上に関して良い影響があったと考えられる。

成果②：害虫対策

土地柄、放牧地は草地および藪、原野だった場所に囲まれており、例年夏季(25度以上)になると大量にアブが発生する。アブは人間に限らず動物にも吸血する昆虫であり、特に馬にとっては毎年ストレスや体調を崩す大きな要因となっている。しかし本年度に関しては、夏季より放牧地に並ぶ藪の草刈りや牧柵を新たに設置したこともあり、アブの量が例年よりも減少傾向にあった。その結果として、馬もストレスを過度に感じることなく放牧することができたことで、体調もうまくコントロールできたことに繋がったのだと考えられる。

成果③：施設整備コストの削減

これまでは重機を使い敷地全体の草刈りを行っていたが、本プロジェクトによる放牧エリアの拡大に伴い、馬に草刈り業務を一部託すことが可能となり、例年(4,150,000円)に比べて8%ほど業者への委託料を削減することができるようになった。また目に見えない部分だが、馬が草を刈ることで、重機を使わず化石燃料の使用を軽減することに繋がり、微力ながらも環境へ配慮した取り組みとして今後も続けていくことが可能であると確認できた。

課題①：人的オペレーションの簡易化

当初の予定では、自然放牧主体とした管理モデルの実現により人的オペレーションを軽減し、人件費等のコストダウンを図ることを狙ってプロジェクト進行を行ってきた。しかし実際は、体調を崩してしまった馬が1頭でたことにより、老馬への付き添い介護という新たなオペレーションコストが発生してしまい、本年度では期待していたコストダウンを図ることができなかった。

ただし、本年度では最小体制で運営を行っていたことで生じたトラブルであり、前提の人員体制に限界があったと考えている。次年度以降は人員も1名増員して運営を行っていく計画を立てているので、仮に体調不良の馬が今後出てきた場合においては、新たなオペレーションを追加することなく運営予定なので、当初計画していたオペレーションにおけるトータルコストの削減に努めていきたい。

以上、一年を通じて得られた成果および課題である。

また本プロジェクトを実施したことにより、今後期待させることとして次のことが最後に挙げたいと思う

- ・MEMAースホテル宿泊者への新たな馬とのふれあいの提案

通常の牧場での馬とのふれあいとは、エサやりや乗馬が一般的である。しかしそうではなく、馬と一緒に整備された遊歩道をお散歩することで馬との本質的な触れ合いの場を提供することが可能になるのではと考えている。本質的な触れ合いとは、表面的ではなく、長時間馬と一定の距離感を保ち接することで、馬が個体ごとに持つ個性や性格、特徴を肌で感じ、理解しようとする姿勢を人間が持つことで、コミュニケーションの本質を学ぶことができる。そしてそのコミュニケーションこそ本来人間同士に必要な活動であり、現代社会における課題の解決にもつながると考えている。

- ・預託事業としての可能性

日本にはいまだない「パドック・パラダイス」という概念を持つ施設が数カ年の計画の後に誕生することで、今までとは異なる飼育管理および馬に対する新たな価値観を創造することが可能となる。現代においてアニマルライツやアニマルウェルフェアの観点から動物に対しての向き合い方が重要視されるようになっていく中で、このような施設で最終的には馬を大切に考えている所有者の受け入れを行うことで新たな事業展開が可能なるかもしれない。

以上

<参考写真1：改修前>





<参考写真2：改修後>









<参考写真3：放牧地様子>

